

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	パーキンソン病療養者と家族を対象とした便秘改善方法の検討				
研究組織	代 表 者	所属・職名	静岡県立大学看護学部・助教	氏名	山本 祐子
	研究分担者	所属・職名	静岡県立大学大学院 看護学研究科	氏名	田中 貴大
		所属・職名	常葉大学 健康プロデュース学部	氏名	鳴瀬 善久
		所属・職名	静岡県立大学大学院 看護学研究科・教授	氏名	富安 眞理
	発 表 者	所属・職名	静岡県立大学看護学部・助教	氏名	山本 祐子

講演題目
パーキンソン病療養者と家族を対象とした看護師が行う便秘改善方法に関する文献検討
研究の目的、成果及び今後の展望
研究の背景と目的 パーキンソン病（以下、Parkinson's disease: PD）療養者の多くは、運動症状とともに非運動症状を認め、80～90%に便秘を発症する。便秘改善方法として多くの場合下剤に頼っているが、腹痛や下痢、失禁などの副作用が生じ、外出や社会的活動の制限に繋がることがある。また、薬物療法の中心であるL-Dパは、腸の運動機能が悪化すると吸収が遅延することが指摘されている。便秘を改善することは重要な課題であることから本研究は、薬や浣腸、摘便にかわる効果的な方法を検討することを目的とした。 方法 キーワードは、「Parkinson's disease（パーキンソン病）」「Constipation（便秘）」「Nursing（看護）」とした。データベースは、PubMed および医学中央雑誌を使用し、開設から2025年1月31日までに公表された論文を検索した。選定基準を以下の3つを選定した。①対象は、PD療養者およびその家族、②看護師が実施可能な生活指導または便秘改善方法に関する文献、③排便回数および周辺症状の改善の有無を記述している文献とした。 結果・考察 文献は、海外文献4編、国内文献1編を選定した。各々の改善方法は、生活習慣指導による改善、睡眠の質確保からの改善、プロバイオティクス摂取による改善、腹部マッサージによる改善、自己管理プログラムによる改善方法であった。これらの改善方法は、消化・吸収・排泄過程のしくみ（図1）に沿って分類することができた。看護師は、PD療養者の病状や療養環境を含めてアセスメントし、多職種とともに多角的に検討することを求められる。今回分析した文献の対象者は、日常生活自立度が高く、自己管理が可能な健康状態であったと推察される。自己管理をうまく行うためには、自己効力感を高めることが重要であり、自己効力感の向上は成功体験を積むことがもっとも強力な支援になると述べられていた。看護師は、便秘改善方法をアセスメントするとともに、自己管理に必要な知識や技術が習得できるよう持続的にPD療養者とかかわり、その効果を体感できるよう支援することが必要である。

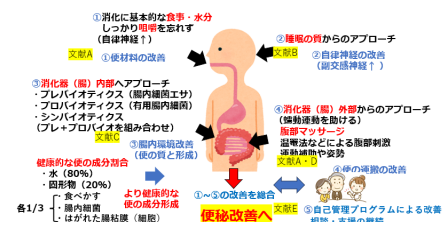


図1. PD療養者の便秘改善に向けたアプローチ